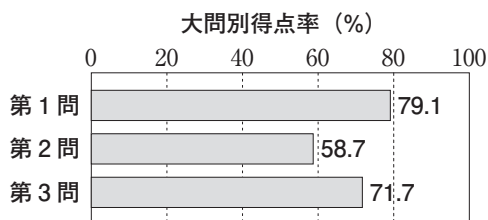
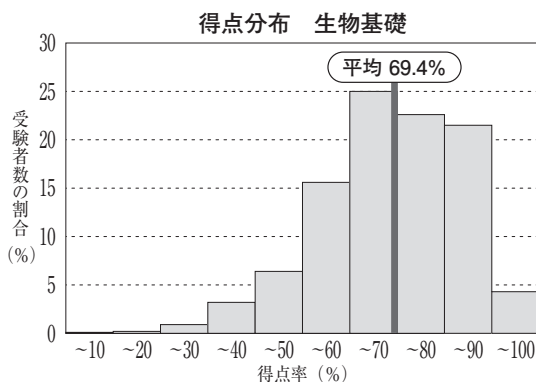


生物基礎

知識をもう一度整理しよう

I. 全体講評

今回の全国統一高校生テスト生物基礎の受験学年の平均点は34.7点だった。第3回8月センター試験本番レベル模試での平均点だった22.9点から大幅に上昇した。知識が定着してきた受験者が増えてきたものと思われる。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター本試験に準じた形をとり、**第1問**は生物と遺伝子、**第2問**は生物の体内環境の維持、**第3問**は生物の多様性と生態系とした。分野に偏りがなく、教科書全体からまんべんなく出題している。今回の模試で平均に届かなかった大問、また他と比べて得点率の低い大問に重点をおいて、しっかりと復習をしておこう。



II. 大問別分析

第1問 生物と遺伝子

細胞内で行われる代謝および DNA の構造と役割に関する知識を整理しよう。

A は呼吸および酵素に関する基本知識を問う問題で、**問1~問3**の受験学年の正答率はそれぞれ90.8%、53.7%、80.9%であった。Bは遺伝物質がDNAであることを証明した実験とDNAの構造に関する問題で、**問4・問5**の正答率はそれぞれ76.7%、94.0%であった。全体的によくできていた。同化と異化について、ATPや細胞小器官との関連も含めよく復習しておこう。また、DNAとRNAの構造の違いを再確認しておこう。

第2問 生物の体内環境の維持

体液の種類とその循環、自律神経のはたらき方について、正確に把握しよう。

Aは血液の成分および体液の循環に関する基本知識を問う問題で、**問1~問3**の正答率はそれぞれ33.9%、82.7%、32.8%であった。Bは自律神経に関する問題で、**問4~問6**の正答率はそれぞれ85.1%、33.6%、84.5%であった。血液成分それぞれの役割、血球に関しては大きさや数も含めよく復習しておこう。また、どんな時に、どちらの自律神経が、どこで、どのようにはたらくかを整理しておこう。

第3問 生物の多様性と生態系

生態系における物質の循環、生態系の保全に関する知識をまとめておこう。

Aは生態系に関する用語および外来生物に関する基本知識を問う問題で、**問1~問3**の正答率はそれぞれ65.0%、62.6%、74.5%であった。Bは炭素の循環に関する問題で、**問4~問6**の正答率はそれぞれ84.3%、72.8%、73.1%であった。絶滅危惧種や特定外来生物の例に関しては、そうした指定を受けた経緯とともに覚えるようにしよう。また、様々な環境問題に関しても、炭素や窒素の循環、あるい

は食物連鎖など生態系のしくみとの関連で理解しておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書の知識をしっかりと身につけることを目指そう。

センター試験の生物基礎は、大問が3題の構成で出題されている。センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。問題文を読みこなし、データを解析し、知識をもとに考察する力が必要となる。センター試験で高得点を取るためには、最後まで教科書をしっかり読み込み、どの分野にも苦手部分が残らないようにすることが大切である。ただ暗記するのではなく、納得するまで教科書を読みこみ、仕組みを理解しながら勉強しよう。これまで受験した模試やセンター過去問を使って、しっかり復習して高得点を狙おう。

◆模試を活用しよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくことは重要である。そのため、できるだけたくさんの問題に取り組んでおくことが得点力のアップにつながる。今までに受けた模試の問題をもう一度解き直してみることも有用である。ぜひ、模試や過去問を積極的に活用してほしい。